

明 — みよう —

真宗大谷派 本明寺通信

No.15

2010年1月1日発行



御遠忌テーマ 今、いのちがあなたを生きている

真宗大谷派
東本願寺
75th Shinran



宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

今、いのちがあなたを生きている

真のよりどころを
求めて



二〇〇九年

本明寺報恩講

十月二十五日(日)

今年の報恩講は、あと一年半後にお迎えする宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌に向けて、帰敬式を執り行いました。今回の帰敬式では十四名(都合により一名別日)が受式し、仏弟子としての歩みを始められました。

帰敬式を通して、自分自身が法名をいただき、仏弟子として歩むことを、あらためて考えさせられました。また受式者が本尊と真剣に向かい合う姿や姿勢に感動しました。



式次第

真宗宗歌
 三帰依文
 剃刀の儀
 執行の辞
 法名伝達
 誓いの言葉
 勤行
 恩徳讃

執行の辞

帰敬式は仏・法・僧の三宝に帰依し、
仏弟子として新たに出発をする式です。

仏弟子になることは自らの人生を孝げ
て仏法を聴聞し、讃歎して、全ての人と
朋に、人としてまことの道を歩むこと
です。

今から後は宗祖親鸞聖人が明らかにさ
れた本願念仏の教えを依りどころとし
て、いよいよ御同朋・御同行の交わりを
深め、寺を聞法の道場として相続下さ
いますよう念じます。

本日、帰敬式をお受けになりました皆
様方に心からお祝い申し上げます。

真宗大谷派 本明寺住職 本田隆見

釋 隆見



受式者代表として「誓いのことば」を述べる任田賢治さん

誓いのことば

ただ今、ご本尊の御前にて帰敬式を受け、法
名をいただきました。

阿弥陀如来は、かぎりない寿とかぎりない光
であり、本当の自分の姿に目覚めるよう、私を
照らし、護り、導いてくださっています。

今日からは、生まれた意義と生きる喜びを、
生活の中で確かめながら、この私にまで教えを
伝えていただいた多くの方がたのご恩をおも
いつつ、生きていきます。



帰敬式受式者

任田 賢治 (釋 賢誠)

任田 武夫 (釋 英武)

任田 美佐子 (釋尼 美徳)

五百川 功 (釋 功証)

五百川 玲子 (釋尼 玲智)

道家 厚 (釋 厚淳)

武井 勉 (釋 勉尋)

根本 武彦 (釋 彦武)

根本 初子 (釋尼 初陽)

小林 やす (釋尼 安浄)

中野 佑子 (釋尼 佑順)

椎名 和代 (釋尼 清和)

山田 ケイ (釋尼 恵香)

十二月十七日受式

武井 さきい (釋尼 咲信)



受式者感想

帰敬式によせて

任田 賢治（釋 賢誠）

五月三十一日の永代経法要の際、
帰敬式のご案内を頂き、読んで見
ますと「南無阿弥陀仏の教えに私

の生き方、あり方を問い学んで行
こうとする、新たな人生の出発の
式です」と書かれていたのに心が
動かされました。

特に親父は生前からご住職のお
父様の時からのお付き合いです。
それもあつて帰敬式に申し込んだ
のは私もそろそろお世話になる年
になったと全く俗っぽい思いもあ
りました。

ところが、真宗入門講座でご住
職、副住職の法話を聞いていくう
ちに、仏やお寺に対して今まで抱
いていた思いの全てが打ち消され
ました。

今まで仏の世界とは、抹香臭い、
死のイメージしか結び付きません
でした。南無阿弥陀仏の意味さえ、
子どもの時から死んだ者への魔除
けの呪文くらいしか思っておりま

せんでした。「他力」にしても大変
奥深い意味があることに驚かされ
ました。

そして講座が終わり帰敬式に出
る前にこの本を読んでくださいと
『真宗門徒の生活』という冊子を
いただきました。読むうちに益々
私には帰敬式を受ける資格がない
ことを悟りました。副住職に「ど
うも私にはまだ帰敬式を受ける資
格がない」と申し上げました。そ
うしましたら副住職から「これか
ら一緒に勉強していきましょう」
と言われ、この年になって勉強と
はと、益々重く感じてしまいました。
た。

帰敬式では大変立派な法名を頂
き、法名に恥じないようにこれか
らの人生を送れるように日々努め
ていかねばと思っております。

任田 武夫（釋 英武）

このたびは、本明寺さんでの帰敬式を受式し、お蔭様で良き法名をいただきました。

真宗入門講座を受けまして、法名の意味も良く理解することが出来まして、お寺さんの皆様には色々とお世話になり、有難うございました。お蔭様で最近はずこし教本を開く機会が多くなりました。

余談にはなりますが、講義を聞いてふと思いついたことを話します。私は若い時に格闘技を始めまして、昇段試験には当然学科もありました。インドからの達摩大師が中国までの布教の旅の中で、行く先々で色々な迫害を受けながら、その中で生きられたのですが、身の安全の護身術としての拳法で、また生活の糧として大工、左官

等々の職人となり、布教をしたそうです。

もう年だからと思わずに健康に注意して、やりぬく精神を持ち、一つずつ焦らずにゆつくりと取り組みこれからの人生を大切に歩みたいものです。



道家 厚（釋 厚淳）

帰敬式と言われても今日まで何のことか知らなかった。仏教も神様もあまり関心がなかった。それほど無関心の私がこのたび帰敬式を受けてから少しでも心が仏教ということに対して理解することが出来たのかと思う。でもこれから始まって考えると何だか恐ろしいように思う。今日までの生活を変えてこれから生きていくのかと思うと恐ろしい気もする。しかし、これによって仏壇に向かつて以前は何も言わずにお参りしていたが声を出してお参りする様に成ったことでも少しは進歩したと思う。私は今日までお寺に行ったら賽銭をあげてお参りすることで良いと思っていた。神社に行っても同じ様に思っていた。しかし、神社の



町総代の役を受けてから少しずつ
神主に聴く話によって勉強になる
ことがあった。仏教についても同
じところがあることを知った。人
間は生きていくことによって死の
世界をただ想像するだけで現実
は解らないけれども、色々な儀式を
受けることによって想像してこの
世の中を渡っていくと思う。帰
敬式も同じことだろうか。

帰敬式を受けて

根本 武彦（釋 彦清）

母が数年前から生前に法名を授
かりたいと思っていることを知り
ました。父の三十三回忌の打ち合
わせの時に帰敬式を知り、母と
もに申し込みをした次第です。

帰敬式は真宗宗歌に始まり剃刀
の儀、そして法名伝達、誓いの言
葉と厳粛の中に終わりました。

人生八十年と言われている中、
私は今六十八歳、人生あと十二年
の生涯です。今までは自分の都合
の良い事しか考えず、都合の悪い
事は見て見ぬ振りをし、そして忘
れ自己中心的なことをしてきたと
思うのです。人は苦より楽を選ぶ
のでしょうか。あと十二年をどの
ように生き、有意義に過ごすこと
が今までの生きてきた反省の証だ



とっております。親に感謝し、
家族に感謝し、友人知人そして出
会ってきた人たちに感謝したいと
思います。人は一人では生きられ
ないと思うのです。全の人、者、
物に感謝の気持ちで残り少ない人
生を過ごすことが出来ればと思
います。

最後になりましたが、立派な法
名を有難うございました。大事に
いたします。

◆報恩講お手伝い

報恩講をお手伝いしていただいた方々をご紹介します。

川瀬	きぬゑ	郡司	三郎
高田	トヨ	高野	勢津子
宝田	満男	宝田	康子
滝口	泉	滝口	和彦
田中	良子	根岸	千栄子



早矢仕 昌治 平山 邦男

横山 ナヲ 若井 武久

お手伝いいただきましてありがとうございます。なお、今後お手伝いいただける方がおりましたらご連絡ください。



◆おみがき奉仕のつどい

十月十八日(日)

川瀬	きぬゑ	滝口	泉
根岸	千栄子	堀	かおる
堀	美江	本田	彰一
本田	信子	横山	ナヲ

お手伝いいただきましてありがとうございます。





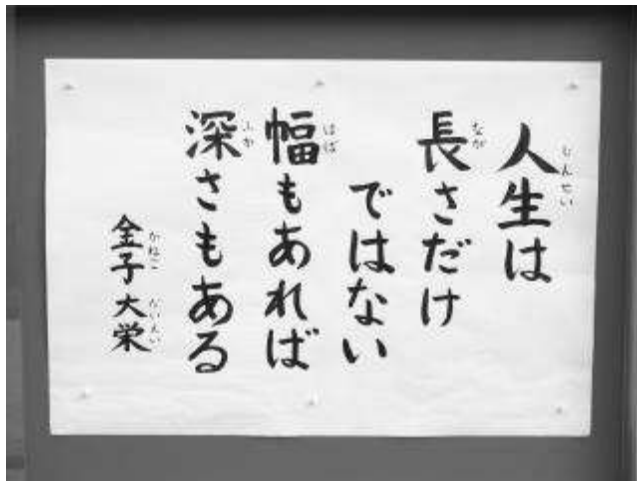
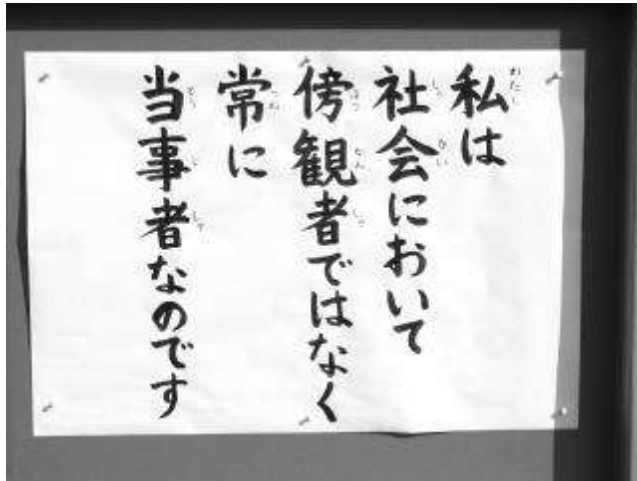
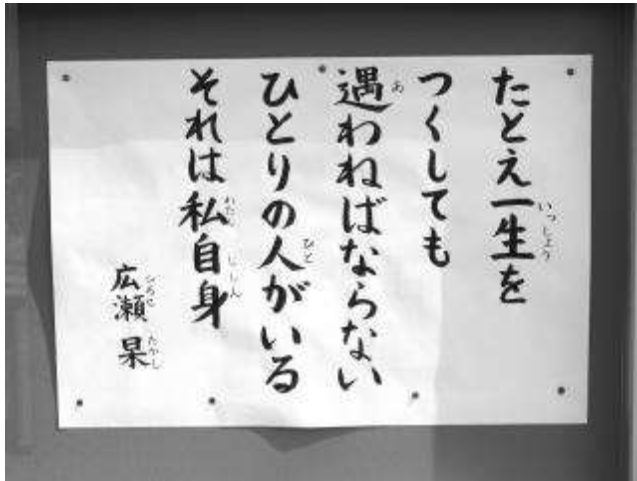
副住職の大まかな活動を知ってもらおうコーナーです。参加した研修会や学習会などの報告記事です。副住職がどんな人と出会い、どんな問いを持ち、どんなことを思ったかを感じていただけたら幸いです。

本山報恩講に 行ってきました

毎年十一月二十一日～二十八日は本山（京都・東本願寺）にて報恩講がお勤めされます。今年の報恩講は御影堂の御修復も完了し、六年ぶりに御影堂でのお勤めとなりました。副住職は二十六日に出仕、二十七日に参詣いたしました。また、二十六日には、学仏道場として長い歴史を持つ高倉会館で行われた讃仰講演会にも参加いたしました。讃仰講演会は報恩講を機縁として、親鸞聖人の明らかにされた本願念仏の教えを共に学び、そのご生涯を偲ぶために開かれています。讃仰講演会での先生のお

話は聴聞者を信頼しきって話しているようで、とても熱がこもって聞いていました。また先生のお話の合間に聴聞者から念仏の声が聞こえることに、讃仰講演会という場に念仏が染み込んでいるのだと思いました。





十月

十一月

十二月



本明寺の予定

◆花まつり(子ども会)

四月四日(日)

日程

13:00 受付

13:30 開会・お勤め・お話

14:00 ゲーム

15:00 おやつ

(クレープを極める)

16:00 閉会

会費 三〇〇円

お寺でお話を聞いたり、遊んだりしましょう。ぜひ参加ください。

※日程は変更することがあります。



◆おみがき奉仕のつどい

五月二十三日(日)

十三時から

一緒に仏具をきれいにしながらお話をしませんか。

◆永代経法要

五月三十日(日)

日程

12:00 受付

13:00 お勤め

14:00 法話

15:00 お斎(親睦会)

永代経法要とは、永代にわたりお経(教え)が大切に受け継がれることを願ってお勤めする法要です。ご家族にもお声かけをし、ご一緒にご参加くださいますようお願い申し上げます。

◆東京一組

御遠忌団体参拝

二〇一一年四月二十五日(月)

〜二十七日(水)

コース

東本願寺(御遠忌法要)〜郡上八幡〜白川郷・明善寺〜高山別院

費用 八万五千円前後

本明寺定員 十二名

(全体定員一四〇名)



※お申し込み・お問合せは、お気軽に本明寺までご連絡ください。

◆ 私たちの真宗 ◆

- 一、本尊 阿弥陀如来
- 二、宗祖 親鸞聖人
- 三、宗旨 浄土真宗
- 四、宗派 真宗大谷派
- 五、本山 真宗本廟（京都・東本願寺）
- 六、経典 浄土三部経
仏説無量寿経
仏説観無量寿経
仏説阿弥陀経
- 七、教え 本願を信じ、念仏もうさば仏になる
- 八、称名 南無阿弥陀仏
- 九、勤行 正信偈・念仏・和讃・回向・御文
- 十、宗風 礼拝の生活
《朝夕に勤行をいたしましょう》
正信の生活
《迷信に惑わされないで歩みましょう》
聞法の生活
《仏法を聴聞し、生まれた意義と
生きる喜びをみつけましょう》

あとがき

▼今年も新しい年が明けました。本年もよろしく申し上げます。

▼娘の唯果（いちか）も二歳になりました。歌を歌うことが大好きなようで、童謡だけではなく、テレビで流れるCMの歌など元気に口ずさんでいます。

★ご意見・ご感想・ご質問などをお待ちしています。

★バックナンバーをご希望の方はご連絡ください。すぐにお送りいたします。

発行 真宗大谷派 本明寺
副住職 本田 彰一（釋 彰一）
〒130-0012 東京都墨田区太平二・七・一
TEL 03-3623-1536
FAX 03-3623-1538
E-mail honmyouji@mx1.ttcn.ne.jp
URL
<http://www1.ttcn.ne.jp/honmyouji/>